

第3学年 総合的な学習の時間（音楽・社会含む） 学習指導案

屋久島町立安房小学校

教諭 窪田 あずさ

1 単元名 わたしたちのまち ～私たちの住む安房地域の秘密を探り、守ろう～

2 単元の目標

○ 校区「安房」の秘密（初めて知ったこと）と、安房地域の課題と課題解決方法を友達に伝えることができるようにまとめることができる。

(知識及び技能)

○ 校区「安房」について、「安房里めぐり」チームの方や地域の方にゲストティーチャーとして、サポートをもらいながら、調べ、課題を探し、解決方法を見出すことができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○ 安房小学校校区で暮らす人と共に安心して暮らせるようにするにはどのようにすれば良いかという意識を持って地域の方と関わり、「安房」地域についてまとめることができる。

(主体的に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元「わたしたちのまち」では、まず、地域の方とたくさん出会い、その出会った方達から、地域の秘密を教えてもらい、友達へ分かりやすく伝えるためにまとめることを目標とした。

「安房小学校校歌」の歌詞の中に出てくるが、知らない言葉や場所があったので、知らなかった言葉の意味や場所を調べるために、実際にその場所へ行き、詳しく知っている方に話を聞くことから始める。教えてくださるのは、「安房里めぐり」チームである。その方たちから地域の実態を教えていただき把握する。そして、安房地域に存在する課題を見つけていく。さらに、安房地域のことを教えていただく時に、会話をすることで地域の方と児童のコミュニケーションスキルの向上を図ることも目的とする。

今年は、さらに音楽の授業で「茶つき」を学習した際に、お茶を飲む体験活動をした。その時に、屋久島にこんなに美味しいお茶を作っている工場があることを知り、なんと自分たちの地域にあることを知った。そのことから、お茶について興味を持ったことから、総合の時間に調べることを始めることになった。

(2) 児童観

本学級の児童は、「SDGs」という言葉や考え方について学んだことがない。なので、SDGsに関係する考えや言葉もはじめて知る児童がほとんどである。また、2年時の頃から生徒指導上の話題に上がっているようなやんちゃな学級である。そのため、人懐こい面もあるが、こだわり強く、考えを変えることが難しく、コミュニケーション能力が乏しい面もある。そのため、学級活動や道徳などで少しずつソーシャルトレーニングを進めているような学級である。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、小学校の歌詞を提示する。この歌詞を通して、「先哲の教え」にある先哲とは誰なのか、「面影の水」が校区にあることを知ることから始める。自分の学校の歌詞なのに、よく理解していないままに歌っていたことに気づかせる。そして、地域の方でもある「安房里めぐり」の方に協力をいただいて、一緒に校区の里めぐりをすることで、より具体的に理解をし、「里めぐり」チームの方たちとの会話をすることでより深く安房を知り、意欲的に学ばせたい。

また、今回は音楽の授業で「茶つみ」を学習する際に「屋久島茶」に着目し、安房校区の地域課題を確認したい。そして、詳しく調べるために、社会の「工場で働く人」へも発展させたい。安房にある「美味しい屋久島茶」のために自分たちにできることはないかを考え、この美味しい「屋久島茶」を守りたいという思いを持たせたい。守るためには、どうすれば解決できるかを考えていきたい。そして、解決策として、同じ学校の友達や保護者に広めたいという考えがスムーズに出てくるように指導したい。

さらに、自分の考えを友達や保護者に伝えるにはどのようにすれば良いかを考え、より友達や保護者に伝えられるように児童と一緒に考えながら進めていきたい。その中で、ゲストティーチャーへ疑問に思っていたことを会話しながら教えてもらうことで、解決するための行動を意欲的に進められるようにしたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

連携性・・・一人で考えて行動するのではなく、周りの友達と力を合わせて解決しようとする。また、お茶を作るのに関係している方、地域の方と協力しなければならないこと。

有限性・・・地球温暖化や様々な要因で「屋久島茶」は有限であるので、人の手で守らなければならない。また、過疎化により様々な仕事の引き継ぎ手が少なく途絶えそうであること。

責任性・・・これからは、将来世代のことも考えて行動していくことが大切ということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

・コミュニケーション力

お茶の工場の方、地域の方に自分の知りたいことをたずね、課題を見つけ、解決するにはどうしたらよいかと自分の考えをつくりあげる。

・未来像を予測して計画を立てる力

お茶について、地域の伝統的なことについて自分たちで広めようと計画する。

・つながりを尊重する態度

地域の方たちとの関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているとことを自覚し、誰に対しても尊重しようとする。

・ 本学習で変容を促す E S D の価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者や幼い子どもなど、同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

幸福感に敏感になる 幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せであることが、将来にも幸せであるとは限らない。

自然環境・文化を尊重する

自分たちの住む地球は変化していて、有限なので、自分たちの手で守っていく必要がある。

・ 達成が期待される S D Gs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 7 パートナーシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域のことを調べるために、話を聞き、理解しながら、メモをとっている。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらと関係付けながらまとめている。</p>	<p>①地域の課題を見出し、課題を解決する方法を考えている。</p> <p>②自分の住む地域について学んだことや考えたこと、行動目標を紙に書いたり、タブレットに打ち込んだり、表現している。</p>	<p>①これまでも守られてきた伝統を自分たちも守りたいという目的意識をもち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>②自分たちの住む地域について学んだことと、地域課題を解決する行動を発信しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全20時間）

主な学習活動	学習への支援	○ 評価
<p>1 安房小の「校歌」や音楽の授業で学習した「茶つみ」をもとに安房地域の課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先哲の教え」とは、如竹先生の教えのこと。 ・如竹先生の教えをお家の人も知らない。 ・如竹先生の教えを、周りの人が知らないことが課題であることに気づく。 ・自分たちの住む地域にお茶を作る畑や工場があることを知る。 	<p>○校歌の歌詞を提示し、如竹先生の教えの部分に着目させる。</p> <p>○如竹先生の教えが書いてある絵本を1人1冊準備し、偉大な先生であったことを確認する。</p> <p>○社会の学習でも工場について知るので、しっかりおさえる。</p>	<p>イー①</p>
<p>2 安房に詳しい「安房里めぐり」の方たちに、実際にその場に一緒へ行き、話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安房橋は昔、木材でできていた話。 ・「面影の水」は、昔は生活用水だった。しかし、量が少なく、如竹先生の指導のもとたくさんのお水を使えるように「如竹堀」ができた話。 <p>☆如竹先生の教えを忘れないために「如竹踊り」ができた話。しかし、過疎化が進み、引き継ぎ手が少なく絶えてしまいそうだという話。</p> <p>3 社会科見学でお茶工場も見学する。</p>	<p>○本来は、屋久島に訪れた方へ地元の歴史、文化、自然、産業などの集落自慢を地元の語り部さんのガイドによって案内するのだが、小学生にも分かるように安房地域のことを分かりやすく説明してもらえるようお願いしておく。</p> <p>○地域について知らなかったことを知りつつ、地域の方の願いや思いを知り、今後の活動をどうするかを考えられるようにする。</p>	<p>アー①</p> <p>ウー①</p>
<p>4 安房地域の課題を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶のことについて調べると、収穫量が減っていることがわかった。 ・新たに「如竹踊り」は、引き継ぎ手が足りていないことが分かった。 ・自分たちにできることがないか。 ・友達や地域の人に人にも伝えていきたい。 	<p>○「祝い申そう」というハロウィンにいた行事は、続いていることを伝え「如竹踊り」を続けるための考え方に生かせられないかなど、考えるヒントを提示できるように準備しておく。</p>	<p>ウー①</p>
<p>4 友達や地域の方へ伝えるために、動画を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをまとめていく。 ・どうしたら、相手に伝わりやすいか考える。 <p>紙芝居・ポスター・チラシ・コマーシャル</p>	<p>○これまでの国語の学習したことを関連させ、構成を考えさせる。アンケートをとって、結果をまとめるところでは、算数の学習とも関連させる。</p>	<p>アー②</p> <p>イー②</p>
<p>5 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安房地域の課題を解決するために、行動を起こせるようになりたい。 	<p>○これからの個人での活動へと発展できるように、できそうなことを例に出せるように準備しておく。</p>	<p>ウー②</p>

〔里めぐりの様子↓〕



里めぐりに行き、自分たちの安房マップを作りました。



疑問がのこった点を質問するために、再度、来校していただきました。



屋久島の安房で作られお茶を飲むことができ、とても満足し、工場まで見学に行きました。



安房の秘密を保護者にも伝えました。知らなかった方もいらっしやクイズも盛り上がりました。

〔成果と課題〕

課題としては、私はもっと「お茶」にクローズアップしたいと思っていたが、児童から思ったような反応がなかった。きっと、私の事前の教材研究が足りていなかったからだと推察する。そして、地域の方の「如竹先生」を思う気持ちや、「安房」に対する思いが強かったからだと思う。地域の方の支援が大きく児童がそちらを楽しんでいると感じたのだと思う。負けないように教材研究をしようと思った。「茶つみ」を歌うことは楽しいようで、時期が違うのだが、総合発表会でも歌いたいと言ってくれ、歌えたことはうれしかった。

児童は、楽しく安房の事を詳しく知ることができた。笑顔がたくさん見られた。それは、地域の方にたくさん支援していただけたからだと思う。児童はたくさんの地域の方に出会うこともでき、登下校時に会うと話をしている。「今日の朝は、地域の方の〇〇さんに会って、ちょっとだけ一緒に歩いてくれたんだよ。」などと得意そうに話をしてくれることが増えてきた。少しずつ自分で考えて行動にうつすことや、コミュニケーション能力は高まってきていると感じた。また、地域のすごい人「泊如竹先生」について学んだことをおうちの方に自慢したという話も聞いている。児童が地域の方が大切に思っている「如竹先生」に誇りを持ち、今までよりもさらに「安房」を好きになってくれたことがとてもうれしい。

現在の学年終了時に目指す姿

郷土や地域のよさに気付き、未来にどのような自然や遊びを残していきたいか、自分ができる自然保全や継承を考え、実践しようとすることができ。



安房の人はどうしてこんなに如竹先生を大切に思っているのだろう。

安房のために自分たちができていることはないだろうか。

総合的な学習の時間「わたしたちのまち ～私たちの住む安房地域の秘密を探り、守ろう～」
「里めぐり」通して自分たちの住む安房を調べることによって、児童は、歴史があることに気づき、誇りをもつことができ。また、安房で大切にされている「如竹先生」のように、地域の課題を解決したいという意欲をもたせる。

総合的な学習の時間
「私たちの安房～私たちの住む安房地域の秘密を探り、守ろう～」
コミュニケーション力
お茶の工場の方、地域の方に自分の知りたいたいことをたずね、課題を見つけ、解決するにはどうしたらよいかと自分の考えをつくりあげる。
未来像を予測して計画を立てる力
お茶について、地域の伝統的なことについて自分たちで広めようと計画する。
つながりを尊重する態度
地域の方たちとの関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっていけるとことを自覚し、誰に対しても尊重しようとする。

音楽科「茶つみ」(教育出版)
実際にお茶を飲む。屋久島にお茶を栽培しているところがあることを知る。こんな美味しいお茶をつむ人はどのような思いをしながら茶つみをしていたのだろうか。と疑問に思うようになり、意欲を高めていきたい。校区にあるお茶畑があるので、見学へ行く。

こんなに美味しいお茶をずっと飲むにはどうしたらいいだろう。

これからの安房について、私たち一人一人が努力しないと。

誰かに任せきりにするのではなく、私たち一人一人が町づくりに積極的に参加していかなければ

道徳「キツネおどり」(東京書籍)
大分県の姫島村で行われている「キツネおどり」について知り、主人公まさるが練習をなまけていたという気持ちになった場面と、見物に来てくれた人たちの顔を見て喜んでる姿を見て、よかったと思う場面をくれば、自分たちも、自分の町にできることをしていこうという気持ちを高める。地域行事に参加しようという意欲を持たせる。

社会科「工場ではたらく人」(教育出版)
校区にあるお茶工場を見学にいき、工場で働く人の気持ちを聞き、お茶に対する思いを知る。そして、工場はどのような仕組みになっているか調べる。これからの工場について話を聞き、先のことを考えたり、今と昔を比べたりしながら、どんな行動ができるかを考える。